

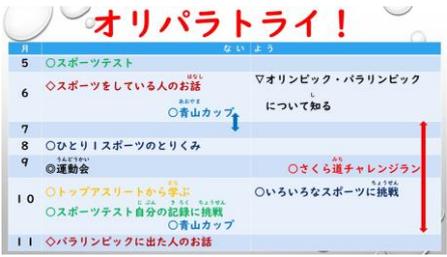
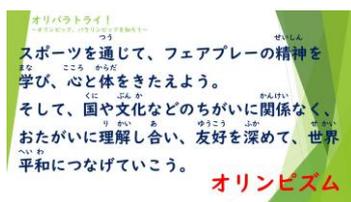
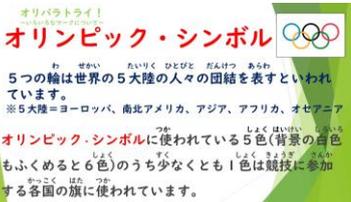
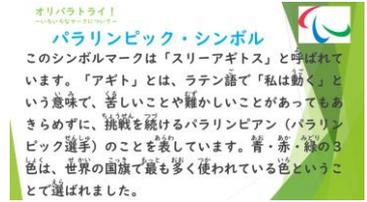
令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書 ①

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

学校名【 郡上市立和良小学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者	全校児童 70名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (給食の時間、休み時間)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック及びパラリンピックについて学ぶことを通して、運動することや体づくりをすることへの関心を高め、積極的に運動に取り組む態度を育てる。
5 取組内容	<p>※本校では、オリンピック・パラリンピック教育に関わる取組名称を「オリパラトライ！」とした。</p> <p>1 オリリンピック・パラリンピックを学ぶ</p> <p>(1) オンラインによる「オリパラトライ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉にオリンピック・パラリンピックに関わる様々な知識を学べるように、大型モニターを活用してオンラインと廊下掲示で情報を発信する。 給食の時間(黙食)に5～10分間で行う。 <div style="text-align: right;">  <p>第1回オンライン講義で年間の計画を示す</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;">  <p>オリパラトライ! スポーツを通じて、フェアプレーの精神を学び、心と体をきたえよう。 そして、国や文化などのちがいに関係なく、おたがいに理解し合い、友好を深めて、世界平和につなげていこう。 オリンピックズム</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>オリパラトライ! もうひとつのオリンピック からだ(手足)、目、知的に障がいがある人たちが、選手として参加する 世界最高のスポーツ大会</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;">  <p>オリパラトライ! オリンピック・シンボル 5つの輪は世界の5大陸の人々の団結を表すといわれています。 ※5大陸=ヨーロッパ、南北アメリカ、アジア、アフリカ、オセアニア オリンピック・シンボルに使われている5色(背景の白色もふくめると6色)のうち少なくとも1色は競技に参加する各国の旗に使われています。</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>オリパラトライ! パラリンピック・シンボル このシンボルマークは「スリーアギトス」と呼ばれています。「アギト」とは、ラテン語で「私は動く」という意味で、苦しいことや難かしいことがあってもあきらめずに、挑戦を続けるパラリンピアン(パラリンピック選手)のことを表しています。青・赤・緑の3色は、世界の国旗で最も多く使われている色ということで選ばれました。</p> </div> </div>



いろいろなテーマでプレゼンテーション

- 第1回 「オリパラトライ！」オリエンテーション
- 第2回 オリンピック・パラリンピックを知ろう
- 第3回 いろいろなマークについて
- 第4回 オリンピック聖火リレー
- 第5回 パラリンピック聖火リレー
- 第6回 オリンピックはじまりの話・フェアプレーについて
- 第7回 東京2020オリンピックを通して伝えたいこと

(2) 図書による「オリパラトライ！」

- オリンピック・パラリンピックに関わる図書を新規購入し、既存の関連図書と共に特設コーナーを設置する。
- 司書職員がコレクションのオリンピック記念切手を掲示する。



購入した図書

2 運動やスポーツに取り組む

(1) 「青山カップ」の実施

- 運動遊びの要素を取り入れたチャレンジスポーツコンテストを行う。
- 「青山カップ」の「青山」は、校長名。
- 以下のコンテストを実施
 - ① 連続逆上がり5回スピードチャレンジ
 - ② タイヤ馬跳びスピードチャレンジ
 - ③ 鉄棒後ろ振り跳びチャレンジ
 - ④ タッチ&ダッシュスピードチャレンジ
 - ⑤ タイヤジグザク走スピードチャレンジ



連続逆上がり5回スピード



タイヤ馬跳びスピード



鉄棒後ろ振り跳び

(2)「さくら道チャレンジラン」の取組

- ・「さくら道国際ネイチャーラン実行委員会」主催の事業に参加し、長距離走に挑戦する。



(3) 夏休み一人1スポーツの取組

- ・続けて取り組む運動やスポーツを決め、夏休みに実践する。

(4) スポーツテストセカンドチャレンジの実施

- ・春に行ったスポーツテストの記録を超えることを目標に、秋に挑戦する。

(5) トップアスリートに学ぶ

- ・岐阜県清流の国推進部地域スポーツ課事業の「岐阜県トップアスリート出前指導」を活用し、運動のコツを学ぶ。

- ・「速く走るコツをつかもう」

講師 岐阜協立大学 河村道彦先生

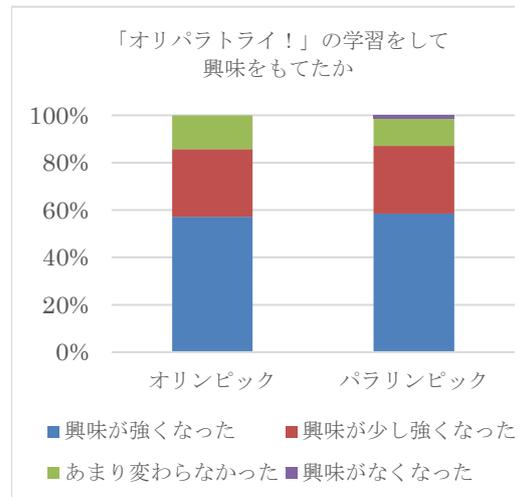


6 主な成果

- ・オンラインによる講義形式での学びではあったが、プレゼンシートを掲示したり、図書を紹介したりすることで、オリンピック・パラリンピックへの興味を高めることができた。
 - ・学習によって、興味をもってテレビ観戦できた。(オリンピックは約80%、パラリンピックは約60%の児童が「いっぱい」「まあまあ」見たと回答)
- <学習後の児童の感想>

#オリンピック、パラリンピックの競技がたくさんあることがわかりました。それにすべての競技をやりたいです。

#「オリパラトライ！」の話を聞いて、スポーツは相手を讃え



合うことや助けあうことが大切ということが分かりました。
#オリンピック、パラリンピックのお話を聞いて、どの選手も一生懸命やる姿がカッコいいと思ったし、歴史みたいなことを知れたのもすごくよかったです。

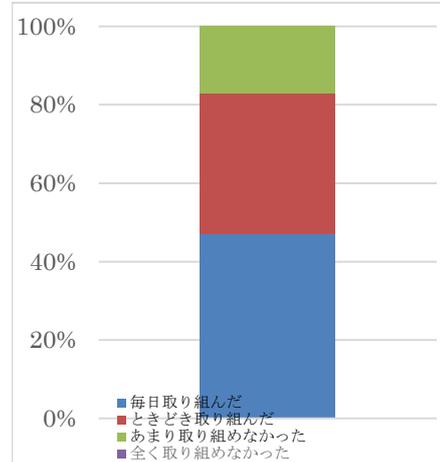
- いろいろな運動機会を設けたことで、運動に積極的に挑戦しようとする気持ちを高めることができた。また、体力の向上を実感でき、さらに高めたいと意欲をもつことができた。

精一杯	46人
まあまあ	20人
あまり	4人
まったく	0人

「さくら道チャレンジラン」
のがんばり度評価

夏休み「一人1スポーツ」の取組評価→

「青山カップ」の挑戦度(左)
と今後の挑戦意欲(右) ↓



毎回挑戦	14人
ときどき	41人
あまり	9人
まったく	6人



ぜひ挑戦	46人
挑戦してもいい	21人
あまり	3人
挑戦しない	0人

	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横跳び	シャトル ラン	50m 走	立ち 幅跳び	ソフト ボール投げ
1回目	13.8	17.8	32.3	37.5	33.0	10.4	137.7	14.2
2回目	14.7	19.0	35.2	40.1	33.5	10.1	141.3	15.8
伸び	0.9	1.1	2.9	2.6	0.6	-0.3	3.6	1.6

スポーツテスト1回目と2回目の比較(全校平均値) = 全種目向上

<取組後の児童の感想>

～「さくら道チャレンジラン」～

- #少し疲れたけどたくさん取り組めたので、走ることは続けたいです。
- #走るのが苦手だったけど、取り組んだおかげで前より走るのが好きになりました。
- #シャトルランの記録が伸びたし、体力がついたので良かったです。
- #続けることの大切さを学びました。走れば体力もつくので家でも走りたいです。
- #自分には体力がないことに気づきました。続けていたら、最初は3周がつかないけど、最後くらいになると3周も平気で走れるようになったので、取組が終わっても続けたいです。
- #あまり体力がなく、特にチャレンジランは得意じゃない「走り」なので、最初1周まわるだけでつかれていました。でも、10周、20周と自分の記録が増えると達成感を感じられました。体力も上がり、スポーツテストの50m走も記録が上がり、続けて取り組む大切さを学びました。

	<p>～トップアスリートに学ぶ～</p> <p>#走るコツがわかったし、50m 走や鬼ごっこの時に走り方に気をつけて走りたいです。</p> <p>#とても楽しかったし、コツを教えてもらったらちょっとは足が速くなったと感じました。</p> <p>#私はあまり腕を振ることができていなかったし、笑顔で走ることもできていなかったけど、授業を受けて、腕を振らないとタイムが落ちることを知ることができました。50m 走など速く走れるようにするためにコツを意識したいです。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 教育課程の中に入れ込んで実施すると、他の教育活動を圧迫する可能性があったので、オリンピック・パラリンピックそのものの学びを教育課程上影響の少ない給食の時間に行った。コロナ禍でICT 機器の活用が日常的になってきたこともあり、オンライン講義とした。(作成したプレゼンテーションやオリパラ関連の動画を配信した) • 関心を高めるために、興味がわく図書を新規購入して、「オリパラコーナー」を設置した。 • 運動することへの関心を高めるために、遊び感覚を取り入れ挑戦したくなる種目を準備して取り組んだ。 • 運動意欲を高めるために、専門的に指導をしていただける外部講師を招いての運動実践を行った。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な教育活動がある中で、「オリンピック・パラリンピック教育」やそれに関わる教育活動を継続的に取り入れるためには、相応の時間を確保する工夫が必要である。授業として行うには、カリキュラム編成から見直すことになる。「できる工夫」としては、「隙間の時間」を活用することが考えられる。今回の取組のように、給食の時間に映像を流したり、短学活の時間や休み時間を利用したりする方法が考えられる。負担感なく、楽しく学習や活動ができなければ、継続的な取組とはならない。 • 目的に合った外部講師を招聘するための諸事業の活用や人材バンクの利用、予算面等、しっかりとした計画の上で行えば、効果的な取組となる。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 運動することへの興味関心を高め、積極的に運動や運動遊びを行う児童を育てていきたい。 • 児童会活動や縦割り班活動、学級活動で、自分たちで運動機会をつくりだす工夫ができる取組を仕組みたい。 • 外部講師を招き、体力の向上やスポーツにより一層親しむ姿を目指したい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書 ②

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

学校名【 郡上市立和良小学校 】

1 実践テーマ	I・II・ III ・ IV ・ V （複数選択可）
2 実施対象者	全校児童 70名
3 展開の形式	<p>(3) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (オリパラ講演会 ・ 人権集会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(4) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>パラスポーツやパラリピアンとふれあうことを通して、障がいがありながらも自分を活かそうとひたむきに努力する姿を敬うとともに、正しい人権感覚を養う。</p>
5 取組内容	<p>1 オリパラ講演会</p> <p>(1) 事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食時間にパラスポーツ紹介映像（i m POSSIBLE より）を流し、理解を深める。 ①パラ陸上 ②ボッチャ ③ゴールボール <p>(2) 講演会（11月24日）</p> <p>講師 中嶋 茜 さん (2012 ロンドンパラリンピック ゴールボール 金メダリスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ゴールボールの体験 ②講演会 ③質問タイム ④お礼の言葉



中嶋茜さん



ゴールボール体験



講師へのお礼の言葉



金メダルにさわったよ

(3) 関連行事

- ・なかよしぽかぽか集会（12月8日）＝人権集会
 - ①事前の取組 「和良小なかよし宣言」に関わるキャンペーン
道徳科の授業
人権短冊
「あったかい言葉かけ運動」
 - ①「和良小なかよし宣言」の読み上げ
 - ②キャンペーンの報告
 - ③「心があたたかくなる本」の読み聞かせ
 - ④人権短冊の交流（縦割り班）
 - ⑤「あったかい言葉かけ」の紹介
 - ⑥合唱「スマイルアゲイン」



交流



図書委員による読み聞かせ



合唱「スマイルアゲイン」

2 運動経験者から学ぶ

(1) 講話（6月16日）

講師 後藤 健治（本校職員）

「さくら道国際ネイチャーラン」＝名古屋市から金沢市までの約250kmを36時間以内で走破するウルトラマラソン大会の完走経験者

- ①「さくら道国際ネイチャーラン」の説明
- ②「さくら道国際ネイチャーラン」の魅力と取り組む姿勢
- (2)「さくら道チャレンジラン」の取組
- ・講話から学んだことを動機づけとして「さくら道チャレンジラン」(長距離走)に取り組む。



後藤健治先生

6 主な成果

- ・「ゴールボール」を体験したことで、パラスポーツの面白さと奥深さを知ることができ、パラリンピックにも興味関心を高くもつことができた。

＜ゴールボールのゲーム体験後の児童の感想＞

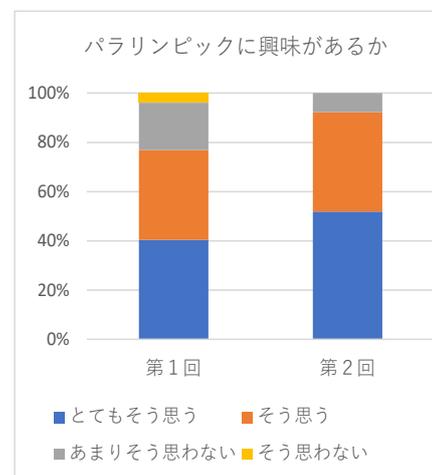
#最初は簡単だと思っていたけど、ボールの位置や距離が全くわからなくて、とても難しかったです。でも、とても楽しかったのもう一度やりたいし、ほかのオリンピック・パラリンピック競技もやってみたいです。



#目が見えなくてもこんなに楽しいゲームがあるんだなあと思いました。

#目が見えない中で行うのはとても不安でしたが、中嶋茜さんが笑顔で明るく話してくださって、パラリンピックにとても興味がわきました。

- ・左のグラフや下の表にあるように、今回の学習を行ったことで、次のパラリンピックへの期待やパラスポーツをやりたいという意欲をもつことができた。



(左図、第1回アンケートは7月、第2回は12月に実施)

◆パラスポーツをやりたいか

ぜひやりたい	36人
やってもいい	25人
あまりやりたくない	7人
まったくやりたくない	1人

◆2024パリパラリンピックを見たいか

いっぱい見たい	45人
まあまあ見たい	21人
あまり見たくない	2人
まったく見たくない	1人

2つとも、「オリパラ講演会」後に調査実施

・「障がい」と向き合って、できることに精一杯取り組む中嶋さんの姿にふれたことで、強い意志をもって生きることの大切さを学ぶことができた。

＜「オリパラ講演会」後の児童の感想＞

#目が見えない人もゴールボールをしたり、字を読んだりできてすごいなと思いました。大会にも出ていて、目が見える人みたいですごいなと思いました。

#目が見えないことで周りに変な目で見られたりつらいことがたくさんあったりするということが分かりました。でも中嶋さんは笑顔で話してくださっていて、自分もそんな方になりたいと思いました。

#やったことがないのに「無理」とか「できない」とか言う時があるので、やってからできるかできないかを言うようにしたいです。

#「知る」「続ける」ことの大切さが心に残りました。特に私はすぐにあきらめてしまう時があるので、少しでも長く「続ける」ことを大切にしたいです。

#まず相手のことを知ること。誰かが障がい者と知らなくても知っていても、みんな公平公正に接しようと思いました。

#「知ることの大切さ」「好きなこと、楽しいことは続ける」ということが心に残りました。知ろうとしないと「いじめ」などが起きてしまうことを知ったので、「知ること」を大切にしたいです。



「オリパラ講演会」後のワンショット
(中嶋茜さんのオフィシャルサイトより)

・「オリパラ講演会」を「人権集会」の近くに位置付けたことによって、講演会で学んだことを活かし、仲間のことをよく知ろうとしたり、仲間の姿そのものを受け止めようとしたりする姿が見られた。

・動機づけとして、運動経験者から話を聞いたことによって、「さくら道チャレンジラン」に意欲的に取り組むことができた。(取り組み始めが暑い7月だったにもかかわらず、積極的な姿勢だった)

7 実践において工夫した点
(事業の特色)

・毎年実施している「人権集会」につなげるために、「オリパラ講演会」の時期を合わせ、多様性について考えるきっかけづくりにしようとした。

・「心」を学んだり受け止めたりするために、生の声を聴く講演会を位置づけた。

<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • より多くの講師とふれあう体験を通じて学びを深めたいと考えているが、人材確保が難しい。活用できる事業や人材バンクを探る必要がある。 • 「多様性の尊重」についての学びを位置づけたいと考えているが、学習の進め方について研究する必要がある。 • パラスポーツへの関心を高めることができたが、継続的にパラスポーツを実施するノウハウを確立しなければならない。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルス感染拡大のため、講師を招いての「ボッチャ」体験が中止となったのは残念だったが、PTA 予算で「ボッチャセット」を購入していただいたので、「ボッチャ」を軸にパラスポーツにふれる取組を展開したいと考えている。 • 道徳教育や人権教育の中に、「多様性の尊重」についての学びを位置づけ、よりよい生き方について考えていきたい。 • オリパラ講演会で学んだ「知ることの大切さ」を広め、多角的・多面的に仲間を見る目を養うようにしたい。(少人数集団が故の偏った見方からの脱却)